

EU



1 農・畜産業の概況

EUは、加盟国（2016年時点28カ国）全体で国土全体の約4割となる1億7334万ヘクタールの農用地面積を有し、農業経営体数は1047万戸、1戸当たり農用地面積は16.6ヘクタールである（表1）。2018年のGDPに農林水産業が占める割合は1.6%であった。

2018年の農業生産額は、4177億7714万ユーロと前年を0.5%上回った。このうち、約4割に相

当する1720億7654万ユーロを畜産が占めており、EU農業の主要部門となっている（図1）。畜産の内訳を見ると、生乳が575億9219万ユーロ（農業全体の14%）、牛肉・子牛肉が332億7777万ユーロ（同8%）、豚肉が362億8907万ユーロ（同9%）、卵・家きんが326億1442万ユーロ（同8%）となっている。

表1 主要農業経済指標

国名／区分	農用地面積	農業労働人口	農業経営体数	1戸当たり農用地面積	農業生産額
	(千ヘクタール)	(千人)	(千戸)	(ヘクタール)	(百万ユーロ)
	2016年	2018年	2016年	2016年	2018年
ベルギー	1,354.3	56.0	36.9	36.7	8,154.3
ブルガリア	4,468.5	220.0	202.7	22.0	4,225.9
チェコ	3,455.4	104.0	26.5	130.2	5,111.6
デンマーク	2,614.6	54.0	35.1	74.6	10,160.4
ドイツ	16,715.3	474.0	276.1	60.5	51,766.3
エストニア	995.1	20.0	16.7	59.6	807.7
アイルランド	4,883.7	161.0	137.6	35.5	8,648.8
ギリシャ	4,553.8	428.0	685.0	6.6	10,313.5
スペイン	23,229.8	865.0	945.0	24.6	50,966.5
フランス	27,814.2	744.0	456.5	60.9	74,649.0
クロアチア	1,563.0	175.0	134.5	11.6	2,266.3
イタリア	12,598.2	1,127.0	1,145.7	11.0	52,269.3
キプロス	111.9	21.0	34.9	3.2	708.9
ラトビア	1,930.9	71.0	69.9	27.6	1,177.6
リトアニア	2,924.6	143.0	150.3	19.5	2,592.4
ルクセンブルク	130.7	4.0	2.0	66.3	397.3
ハンガリー	4,670.6	392.0	430.0	10.9	8,302.2
マルタ	11.1	5.0	9.2	1.2	114.9
オランダ	1,796.3	154.0	55.7	32.3	27,314.3
オーストリア	2,669.8	117.0	132.5	20.1	6,972.4
ポーランド	14,405.7	1,676.0	1,410.7	10.2	24,982.0
ポルトガル	3,641.7	238.0	259.0	14.1	7,486.8
ルーマニア	12,502.5	1,474.0	3,422.0	3.7	17,197.7
スロベニア	488.4	78.0	69.9	7.0	1,371.2
スロバキア	1,889.8	42.0	25.7	73.6	2,159.0
フィンランド	2,233.1	60.0	49.7	44.9	3,871.6
スウェーデン	3,012.6	56.0	62.9	47.9	5,620.0
英国	16,673.3	297.0	185.1	90.1	28,169.5
EU28カ国	173,338.6	9,256.0	10,467.8	16.6	417,777.1

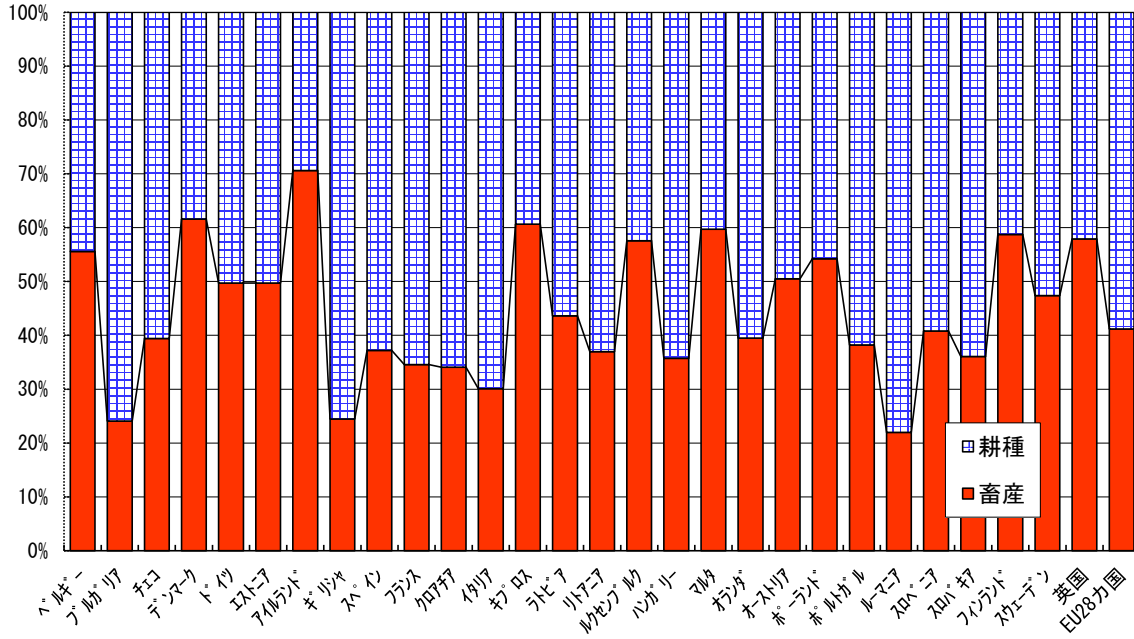
資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：EU28カ国の農用地面積、農業経営体数は、各国の数値の合計。

注2：1戸当たり農用地面積は、農用地面積および農業経営体数から算出。

注3：農業労働人口は、年単位で直接雇用された農業労働者の人口。

図1 農業生産額に占める畜産のシェア（2018年）



資料：欧州委員会「Eurostat」

2 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

2018年のEU（加盟28カ国）の生乳出荷量は、全世界の約2割を占めている。EUは、牛乳・乳製品の自給率が112%と純輸出地域であり、国際乳製品市場に大きな影響力を持っている。

また、米国農務省（USDA）によると、2018年の世界の乳製品貿易量に占めるEUの割合は、チーズが41%となり、ロシアが2014年8月から実施している農畜産物の禁輸措置などの影響により減少していたものの、2016年以降は増加傾向で推移した。同じくバターは18%、脱脂粉乳は34%となった。

2015年3月末の生乳生産割当（クォータ）制度廃止を契機とし生乳の増産傾向が続いていた中、輸出環境の悪化から、EUの生乳と乳製品の需給は著しい緩和状態となった。この対応として欧州委員会は2016～17年にかけて生乳出荷削減奨励事業を実施したほか、EU域外への輸出拡大、2015～17年にかけて脱脂粉乳の公的買い入れの実施などを行い需給状況の改善が図られた。なお、2018年の生乳出荷量は

前年比増となった。

2016年後半以降上昇傾向で推移していた生乳生産者価格は、2018年は前年と比べて低下した。

① 主要な政策

ア 生乳生産割当（クォータ）制度

EUは、1984年以降、国ごとに生乳生産量の枠（クォータ）を割り当て、クォータを超過した場合、一定額の課徴金を課すとともに、加盟国内の農家間での売買などを認める生産割当（クォータ）制度を実施してきた。

同制度は、2008年11月に合意した「ヘルスチェック」（共通農業政策（CAP）の中間検証作業）に基づき、2015年3月末で廃止され、生産者は自由に生産できることとなった。

イ 乳製品の介入買い入れ

EUは、バターおよび脱脂粉乳の介入買い入れを通じた価格支持により、間接的に生乳生産者価格を支持している。介入価格は、2003年のCAP改革に基づき、段階的に引き下げられている。

バターは、各年3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり221.75ユーロ）を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格のものを買い入れる。なお、当該年の介入買入数量が買入限度数量の5万トンに達した場合は、入札により買い入れが実施できることとなっている。

また、脱脂粉乳は、各年3月1日～9月30日の間、市場価格が介入価格（100キログラム当たり169.80ユーロ）を下回った場合、加盟国の介入機関を通じて一定規格のものを買い入れる。なお、当該年の介入買入数量が買入限度数量の10万9000トンに達した場合、入札により買い入れが実施できることとなっている。

脱脂粉乳の介入買い入れは、2015～17年に行われ、介入在庫量は2018年12月末で約18万トンまで減少した。なお、バターについては2010年以降、18年までは行われていない。

ウ 民間在庫補助

2014年以降の新たなCAPでは、バター、脱脂粉乳およびチーズを対象に、大幅な価格の下落など欧州委員会が必要と認めた場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助が行われる。

2014～17年で民間在庫補助の対象となった脱脂粉乳数量は、約18万4000トンとなった。また、バターについては、約30万6000トンとなった。なお、2018年は民間在庫補助が行われなかった。

エ 輸出補助金

EUには、乳製品の国際競争力を高め、輸出を促進するため、チーズ、バター、脱脂粉乳などの輸出に対して輸出補助金を交付する制度があった。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目および輸出先ごとに販売・輸送コストなどを勘案して設定されていた。しかし、2015年の世界貿易機関（WTO）のナイロビ会議での合意により、輸出補助金は廃止となった。なお、CAPの下で、例外的に輸出補助金の使用が認められているものの、2018年は、すべての

乳製品で輸出補助金の発動はない。

オ 域内消費の促進

乳製品に関連した補助として、牛乳やチーズなどの学校給食用消費などに対する補助が行われている。

② 生乳の生産動向

ア 酪農経営体数

EUの酪農経営体数は、景気の低迷や大規模化などを背景として小規模層を中心に減少傾向にあり、2013年は148万戸と、前回調査（2010年）から15%減少した（表2）。

表2 酪農経営体数、乳用経産牛飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

区分/年	(単位：千戸、千頭、頭/戸、%)						増減率
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	
酪農経営体数	1484.7	-	-	-	-	-	-
経産牛飼養頭数	23,469	23,521	23,570	23,532	23,313	22,908	▲ 1.7
1戸当たり経産牛飼養頭数	15.8	-	-	-	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：経産牛飼養頭数は、各年12月末現在のもの。

注2：酪農経営体数は、2014年以降公表されていない。

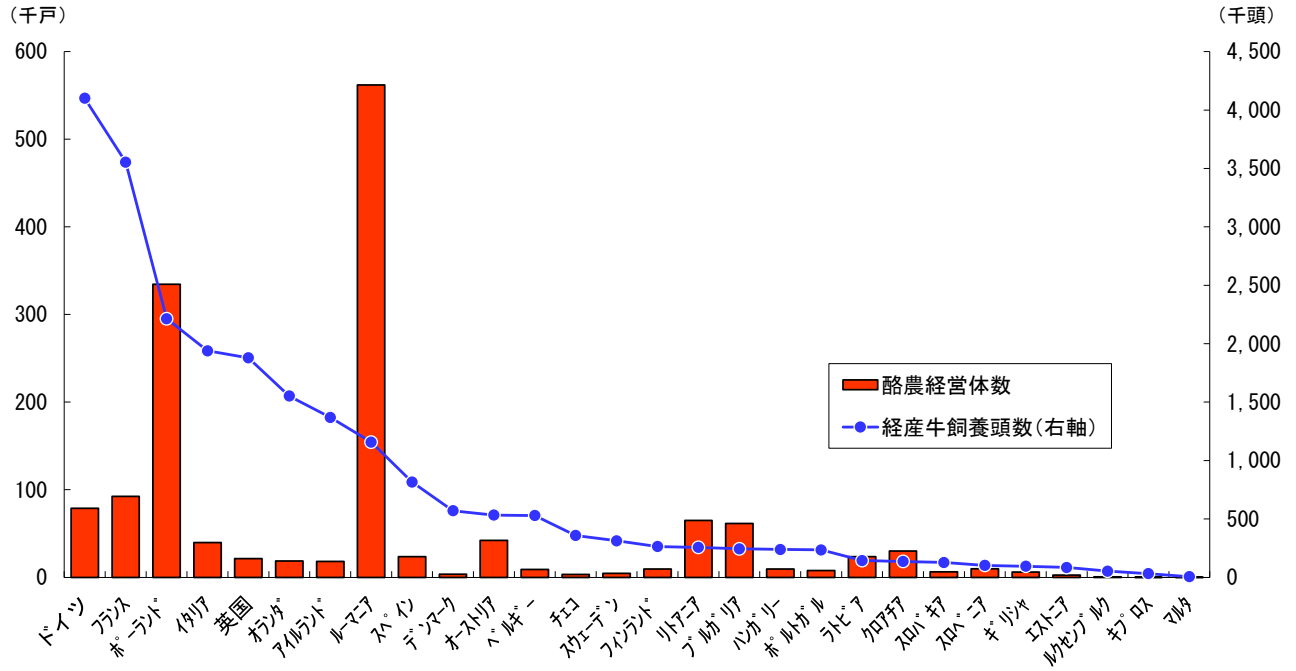
イ 飼養頭数

経産牛飼養頭数は、生乳生産者価格の低迷を主因とした経産牛の淘汰や主要国の一つであるオランダにおいて環境規制強化による頭数削減があり、前年比1.7%減の2291万頭となった。

国別で見ると、頭数の多い順に、ドイツ410万頭、フランス355万頭、ポーランド221万頭、イタリア194万頭、英国188万頭、オランダ155万頭、アイルランド137万頭となり、これら7カ国でEU全体の約7割を占める（図2）。

2013年の1戸当たり経産牛飼養頭数は15.8頭で、2010年から16%増加した。国別では、1戸当たり経産牛飼養頭数の最も多いのがデンマークの15.5頭であるのに対し、ルーマニアは2.1頭、ブルガリア、リトアニアはともに4.6頭であり、加盟国間の差が大きい。

図2 酪農経営体数（2013年）および乳牛飼養頭数（2018年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

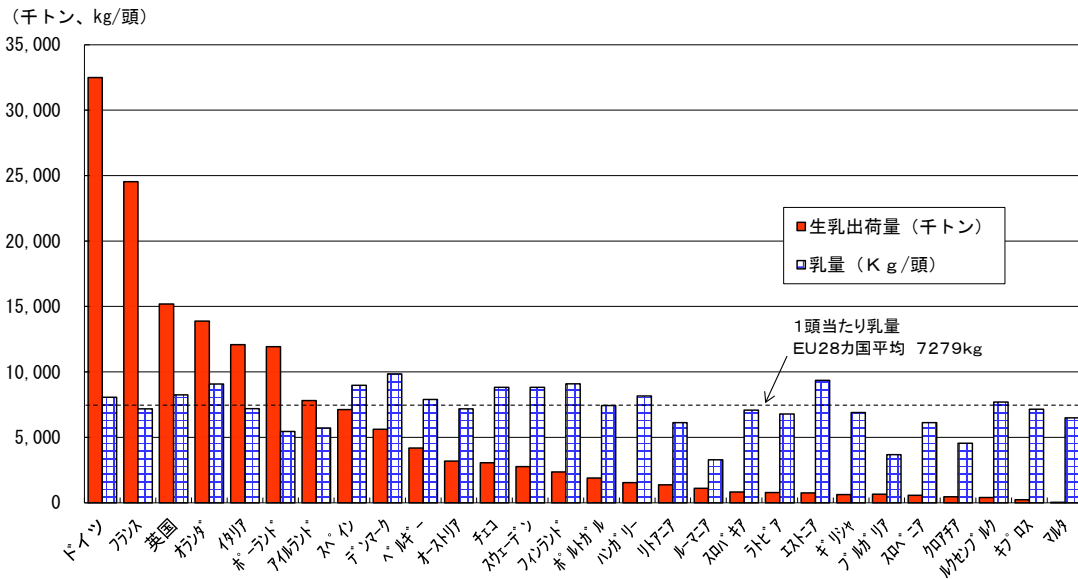
ウ 経産牛1頭当たり乳量

2018年の経産牛1頭当たり乳量は、7279キログラムとなった。ただし、第1位のデンマークの9851キログラム、第2位のエストニアの9353キログラムに対し、下位にある東欧圏のブルガリア、ルーマニアはそれぞれ3000キログラム台となっており、加盟国間での差は大きい（図3）。

エ 生乳出荷量

2018年の生乳出荷量は、前年比0.8%増の1億5741万トンとなった。国別では、出荷量の多い順に、ドイツ3249万トン、フランス2453万トン、英国1519万トン、オランダ1388万トン、イタリア1208万トン、ポーランド1193万トンとなり、これら6カ国でEU全体の生産量の約7割を占める。

図3 生乳出荷量および経産牛1頭当たり乳量（2018年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」

③ 牛乳・乳製品の需給動向

ア 飲用乳

2018年の飲用乳(乳飲料、ヨーグルトなどを含む)生産量(販売量)は3033万トンで、1人当たり飲用乳(同)消費量は平均で57.8キログラムと前年を下回った(表3)。

表3 1人当たり年間飲用乳消費量の推移

国/年	2014	2015	2016	2017	2018	増減率
ベルギー	51.8	49.7	46.3	46.9	45.3	▲ 3.4
ブルガリア	19.4	19.1	17.8	17.7	-	-
チェコ	59.7	60.1	60.0	61.1	59.4	▲ 2.8
デンマーク	89.9	87.8	86.7	83.8	81.0	▲ 3.3
ドイツ	54.7	52.8	52.6	52.2	50.6	▲ 3.1
ギリシャ	46.2	45.5	43.1	43.2	-	-
エストニア	118.5	101.1	97.8	103.6	121.2	17.0
スペイン	80.8	80.5	78.4	78.7	78.9	0.3
フランス	53.0	51.5	49.6	47.5	45.3	▲ 4.6
アイルランド	118.7	122.4	125.0	123.3	-	-
イタリア	50.7	50.2	47.7	46.5	45.9	▲ 1.3
クロアチア	67.4	72.3	72.6	71.5	-	-
ラトビア	39.8	38.4	44.2	44.9	42.6	▲ 5.1
リトアニア	33.7	33.5	37.0	36.3	40.9	12.7
ハンガリー	48.3	50.6	53.0	53.8	52.2	▲ 3.0
オランダ	45.5	49.3	49.0	42.2	41.5	▲ 1.7
オーストリア	76.7	76.4	76.6	77.4	77.6	0.3
ポーランド	38.6	39.2	39.3	40.0	40.9	2.3
ポルトガル	79.4	71.8	68.4	69.1	-	-
ルーマニア	14.3	15.1	15.9	16.7	-	-
スロバキア	48.5	48.0	46.3	46.3	45.9	▲ 0.9
フィンランド	128.6	125.4	120.1	114.2	109.1	▲ 4.5
スウェーデン	85.5	85.4	81.7	78.0	76.7	▲ 1.7
英国	103.9	105.0	101.2	104.7	102.4	▲ 2.2
EU28カ国	61.4	59.8	59.3	59.2	57.8	▲ 2.4

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」
注：2018年は暫定値。

イ バター

EUのバター生産量(バターオイルを含む)は、世界の生産量の2割以上を占める。

2018年のバター生産量は、前年比0.9%増の234万トンとなった(表4)。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国でEU全体の約4割を占めている(図4)。

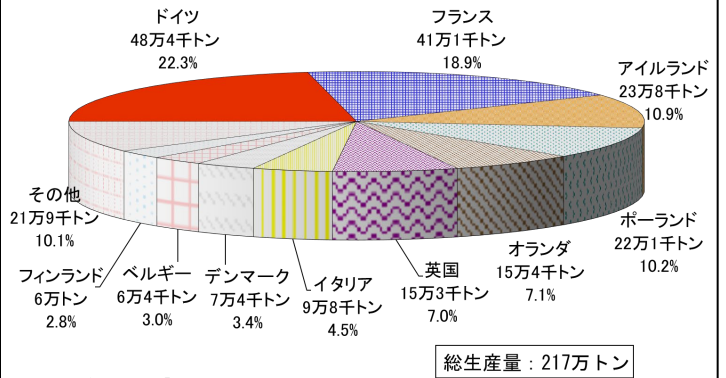
2018年のEU域外輸出量は、域内需要の高まりにより、同7.6%減の16万トンとなった。主な輸出先は、米国やサウジアラビア、中国となった。

表4 バター需給の推移

区分/年	2014	2015	2016	2017	2018	増減率
生産量	2,195	2,280	2,320	2,315	2,335	0.9
うち乳業工場	2,178	2,260	2,302	2,297	2,315	0.8
農家	17	20	18	18	20	11.1
輸入量	50	24	21	15	20	33.3
輸出量	148	178	207	171	158	▲ 7.6
在庫量(12月末)	125	135	115	106	105	▲ 0.9
域内消費量	2,067	2,116	2,154	2,168	2,198	1.4
1人当たり消費量(kg)	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	2.4

資料：AMI「Market Review Dairy 2020」
注1：生産量にはバターオイルを含む。
注2：2018年は暫定値。

図4 バターの国別生産量(2018年)



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」
注：EU28カ国。

2018年のバター消費量は、前年比1.4%増の220万トンとなった。1人当たり消費量は、前年比2.4%増の4.3キログラムとなった。国別では、フランス(8.4キログラム)、デンマーク(6.7キログラム)、ドイツ(5.8キログラム)での消費が多い。一方、オリーブ油など植物油脂の消費が多いイタリア(2.5キログラム)などでは少ない(表5)。

表5 1人当たりバター消費量の推移

(単位：kg/人、%)

国/年	2014	2015	2016	2017	2018	増減率
ベルギー	2.3	2.3	2.3	2.2	2.1	▲ 4.5
ブルガリア	0.9	1.0	1.0	1.0	-	-
チェコ	5.1	5.5	5.4	5.0	5.1	2.0
デンマーク	4.9	5.0	6.3	6.2	6.7	8.1
ドイツ	5.7	6.1	6.1	6.0	5.8	▲ 3.3
ギリシャ	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.0
エストニア	2.2	1.6	2.7	2.7	2.3	▲ 14.8
スペイン	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.0
フランス	8.4	8.2	8.2	8.0	8.4	5.0
アイルランド	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	0.0
イタリア	2.3	2.5	2.6	2.5	2.5	0.0
クロアチア	1.2	1.6	1.5	1.5	-	-
ラトビア	2.8	3.0	2.9	2.8	3.2	14.3
リトアニア	3.0	3.3	3.8	4.1	4.1	0.0
ハンガリー	1.2	1.6	2.2	2.5	2.4	▲ 4.0
オランダ	3.7	3.9	4.5	4.0	5.4	35.0
オーストリア	5.4	5.0	5.3	5.4	5.5	1.9
ポーランド	4.1	4.3	4.6	4.4	4.6	4.5
ポルトガル	1.9	1.8	1.8	2.0	-	-
ルーマニア	0.8	0.9	1.1	1.1	-	-
スロバキア	3.2	3.6	3.9	3.7	3.4	▲ 8.1
フィンランド	3.2	3.3	3.3	3.4	3.4	0.0
スウェーデン	2.3	2.5	2.5	2.4	2.3	▲ 4.2
英国	2.9	3.1	2.7	3.0	2.6	▲ 13.3
EU28カ国	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	2.4

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」
注：2018年は暫定値。

ウ 脱脂粉乳

EUの脱脂粉乳生産量は、世界の生産量の4割弱を占める。

2018年の脱脂粉乳生産量は、前年比0.8%減の167万トンとなった(表6)。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国で約5割を生産する(図5)。消費量は同4.4%増の99万トンであった。

脱脂粉乳については、低迷した需給の改善を目的に2015年7月から2017年9月までに行われた公的買い入れにより、公的在庫は2017年末には約38万トンまで積み上がった。その後、公的在庫は2016年12月から売り渡しが始まり、2018年末には約18万トンまで減少した。

公的在庫が積み上がった結果、EU産脱脂粉乳価格が低迷し、輸出市場で価格競争力を持ったことなどから、輸出は増加し、2018年のEU域外輸出量は、同4.6%増の82万トンとなった。主な輸出先は、アルジェリア、中国、インドネシア、フィリピン、エジプトなどとなった。

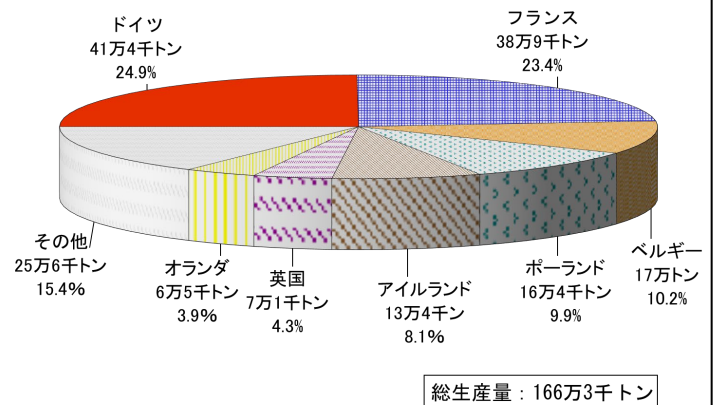
表6 脱脂粉乳需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2014	2015	2016	2017	2018	増減率
生産量	1,592	1,696	1,692	1,677	1,663	▲ 0.8
輸入量	2	3	4	2	3	50.0
輸出量	648	695	579	780	816	4.6
介入在庫量(12月末)	0	29	351	378	175	▲ 53.7
域内消費量	856	896	895	945	987	4.4

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」
注：2018年は暫定値。

図5 脱脂粉乳の国別生産量(2018年)



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」
注：EU28カ国。

エ チーズ

EUのチーズ生産量は、世界の生産量の約5割を占める。

2018年のチーズ生産量は、EU域内外の需要が強く、前年比1.3%増の1052万トンとなった(表7)。主な生産国は、ドイツとフランスであり、2カ国でEU全体の約4割を生産する(図6)。

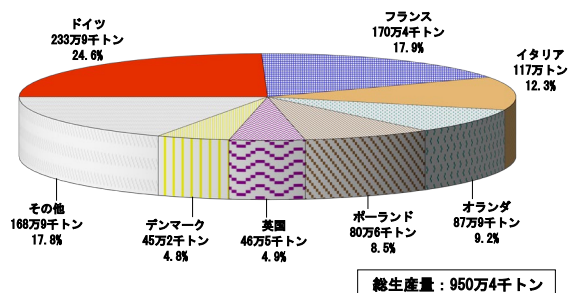
表7 チーズ需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2014	2015	2016	2017	2018	増減率
生産量	9,708	10,016	10,155	10,386	10,522	1.3
うち乳業工場(生乳原料)	8,868	9,069	9,190	9,394	9,504	1.2
農家(生乳原料)	105	105	105	105	105	0.0
その他(生乳原料)	735	842	860	887	913	2.9
輸入量	77	61	71	60	59	▲ 1.7
輸出量	721	719	799	828	833	0.6
域内消費量	9,285	9,567	9,691	9,859	9,993	1.4
1人当たり消費量(kg)	18.3	18.8	19.0	19.3	19.5	1.0

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」
注：2017年および2018年は暫定値。

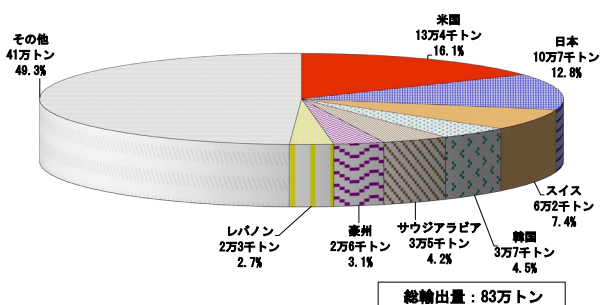
図6 チーズの国別生産量（2018年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」
 注1：EU28 各国。
 2：生産量のうち乳業工場生産分。

2018年のEU域外輸出量は、同0.3%増の83万トンとなった。主な輸出先は、輸出量の多い順に、米国（13.4万トン）、日本（10.7万トン）、スイス（6.2万トン）となっている（図7）。チーズは、2014年から始まったロシアの禁輸措置の影響が最も大きかった品目であったが、ロシアに代わりほかの輸出先が増加した。

図7 チーズの輸出先国（2018年）



資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」
 注：EU28 各国。

チーズの消費量は増加傾向にあり、2018年は1000万トンであった。1人あたりでは19.5キログラムであるが、加盟国間でかなりの差があり、フランス（26.5キログラム）、ドイツ（24.2キログラム）などで多い一方、スペイン（8.9キログラム）などでは少ない（表8）。

表8 1人当たりチーズ消費量の推移

(単位：kg/人、%)

国/年	2014	2015	2016	2017	2018	増減率
ベルギー	15.2	14.8	15.0	14.6	14.2	▲ 2.7
ブルガリア	15.8	15.6	15.7	15.5	-	-
チェコ	16.5	16.5	17.6	17.8	17.8	0.0
ドイツ	24.2	24.6	25.0	23.9	24.2	1.3
ギリシャ	21.9	21.7	23.1	24.3	-	-
エストニア	21.5	16.1	19.8	17.6	-	-
スペイン	9.6	8.9	9.0	8.9	8.9	0.0
フランス	26.7	26.9	26.6	26.5	26.5	0.0
アイルランド	6.6	6.6	6.8	6.8	6.8	0.0
イタリア	22.3	22.6	21.5	21.7	21.8	0.5
クロアチア	11.2	12.2	13.0	13.1	-	-
ラトビア	17.4	19.8	19.1	19.1	20.0	20.2
リトアニア	18.6	18.1	17.5	20.6	20.8	1.0
ハンガリー	11.6	12.9	13.3	13.5	13.3	▲ 1.5
オランダ	18.2	23.2	21.7	22.0	24.4	10.9
オーストリア	21.6	21.5	22.9	22.3	22.8	2.2
ポーランド	15.4	17.2	18.6	18.9	19.1	1.1
ポルトガル	10.5	10.9	11.3	11.9	-	-
ルーマニア	5.3	6.0	7.1	7.6	-	-
スロベニア	14.5	14.8	14.9	15.3	-	-
スロバキア	11.5	12.2	14.0	13.5	13.5	0.0
フィンランド	25.7	27.1	26.8	25.9	25.7	▲ 0.8
スウェーデン	20.6	21.2	20.6	20.0	20.2	1.0
英国	11.5	11.9	11.6	11.7	11.8	0.9
EU28 各国	18.3	18.8	19.0	19.3	19.5	1.0

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」
 注：2018年は暫定値。

④ 生乳および牛乳・乳製品の価格動向

ア 生乳生産者価格

生乳生産者価格は、2015年3月末のクォータ制度廃止による生乳生産の増加により、2016年は下落したものの、2017年は前年比23.1%高となった。2018年は同2.0%安の100キログラム当たり33.45ユーロとわずかに下落した(表9)。

表9 生乳生産者価格の推移

(単位：ユーロ/100kg、%)

国/年	2014	2015	2016	2017	2018	変動率
ベルギー	36.00	27.93	26.70	35.05	32.19	▲ 8.2
ブルガリア	34.59	28.41	27.05	30.41	29.86	▲ 1.8
チェコ	27.20	23.97	31.46	32.32	33.39	3.3
デンマーク	39.67	31.03	28.83	36.90	35.96	▲ 2.5
ドイツ	37.58	29.29	26.73	36.19	34.37	▲ 5.0
エストニア	32.82	23.69	23.66	32.67	30.72	▲ 6.0
ギリシャ	43.18	41.84	38.65	38.79	39.62	2.1
スペイン	35.18	30.15	29.12	30.96	31.23	0.9
フランス	35.48	30.65	28.52	32.42	32.81	1.2
アイルランド	34.63	26.80	25.20	33.62	31.56	▲ 6.1
イタリア	40.77	35.08	33.58	37.40	36.23	▲ 3.1
クロアチア	34.28	29.17	25.75	34.08	33.85	▲ 0.7
キプロス	56.50	56.50	56.00	55.88	55.97	0.2
ラトビア	28.88	21.58	21.41	30.58	28.33	▲ 7.4
リトアニア	24.85	18.61	18.07	25.22	24.01	▲ 4.8
ハンガリー	33.35	25.73	23.56	30.26	29.53	▲ 2.4
オランダ	38.90	30.75	28.40	35.50	33.60	▲ 5.4
オーストリア	38.11	32.35	29.77	35.98	35.41	▲ 1.6
ポーランド	31.63	26.44	24.65	31.67	30.60	▲ 3.4
ポルトガル	34.86	29.66	28.02	29.68	30.75	3.6
ルーマニア	27.26	25.16	24.85	26.63	26.36	▲ 1.0
スロベニア	34.67	28.33	25.28	30.32	30.30	▲ 0.1
スロバキア	33.65	27.52	24.96	30.68	31.53	2.8
フィンランド	44.29	37.59	37.08	37.72	37.92	0.5
スウェーデン	38.64	31.54	30.70	37.94	34.64	▲ 8.7
英国	38.05	32.72	26.74	31.80	32.11	1.0
EU28カ国	36.60	30.10	27.75	34.15	33.45	▲ 2.0

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」

注：3.7%脂肪分のもの。ただし、ドイツは4.0%脂肪分のもの。

イ 飲用乳小売価格

EU最大の生乳出荷国であるドイツを見ると、全脂乳(乳脂肪3.5%以上)の小売価格は、1リットル当たり1.11ユーロ(前年比1.8%高)であった(表10)。

表10 ドイツの飲用生乳小売価格の推移

(単位：ユーロ/リットル、%)

区分/年	2014	2015	2016	2017	2018	変動率
全脂乳 (乳脂肪1.6%~3.5%)	0.74	0.65	0.62	0.75	0.80	6.7
全脂乳 (乳脂肪3.5%以上)	1.09	1.08	1.05	1.09	1.11	1.8
UHT牛乳 (乳脂肪1.5%以下)	0.68	0.59	0.56	0.68	0.70	2.9

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」

ウ バター卸売価格

2018年のバター卸売価格(工場または倉庫渡し)は、主要国で軒並み前年を下回った(表11)。

表11 主要国のバター卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2014	2015	2016	2017	2018	変動率
フランス	3.37	3.02	3.33	5.26	5.13	▲ 2.5
ドイツ	3.36	3.01	3.34	5.27	5.14	▲ 2.5
オランダ	3.31	2.96	3.26	5.22	4.99	▲ 4.4
英国	3.37	2.99	5.17	5.28	4.84	▲ 8.4
イタリア	3.39	2.98	3.24	5.19	5.02	▲ 3.3
ベルギー	3.34	3.00	3.28	5.23	5.05	▲ 3.4

資料：AMI「Market Review Dairy 2020」

注：工場または倉庫渡しの価格で付加価値税は含まない。

エ 脱脂粉乳卸売価格

2018年の脱脂粉乳卸売価格(工場渡し)は、主要国で軒並み前年を下回った(表12)。

表12 主要国の脱脂粉乳卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国/年	2014	2015	2016	2017	2018	変動率
ドイツ	2.38	1.68	1.64	1.66	1.31	▲ 21.1
フランス	2.63	1.85	1.82	1.75	1.52	▲ 13.1
オランダ	2.58	1.81	1.80	1.75	1.49	▲ 14.9
ベルギー	2.69	1.90	1.84	1.78	1.53	▲ 14.0

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」

注：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

オ チーズ卸売価格

2018年のチーズ卸売価格(工場渡し)は国・区分ごとに異なるが、主要国で軒並み前年を下回った(表13)。

表13 主要国のチーズ卸売価格の推移

(単位：ユーロ/kg、%)

国・区分/年	2014	2015	2016	2017	2018	変動率
ドイツ						
エメンタール45%	5.56	5.38	5.47	5.75	5.72	▲ 0.5
英国						
チェダー	3.78	3.25	3.06	3.67	3.43	▲ 6.6
ベルギー						
チェダー	3.49	2.79	2.83	3.47	3.25	▲ 6.3
イタリア						
グラナ・パダーノ	7.79	7.40	7.53	7.82	7.20	▲ 7.9
ポーランド						
エメンタール	3.92	3.26	3.20	3.75	3.46	▲ 7.7

資料：AMI「Markt Bilanz Milch 2020」

注：工場渡しの価格で付加価値税は含まない。

(2) 肉牛・牛肉産業

2018年のEU（加盟28カ国）の牛肉生産量は、世界の生産量の約1割を占めている。

EUは気候・地理・歴史的条件に応じて、多種多様な品種の牛（肉用種、乳用種、乳肉兼用種）が飼養されており、牛肉の生産構造や牛肉に供する牛の種類（子牛、経産牛、去勢牛、雄牛など）は、国によってかなり異なっている。EUの牛肉自給率は、2001年には103%であったが、同年のBSE問題の再燃などにより生産量が減少傾向となり、2003年以降は牛肉の純輸入地域となった。その後も2013年にアイルランドで発覚した牛肉加工製品への馬肉混入事件の影響などによる消費者離れなどがあったが、BSE管理の徹底などにより輸出量を増加させるなどし、2010年以降、自給率は100%を超えて推移している（表14）。

また、EUは、酪農が盛んな地域であり、全体のと畜頭数のうち約3分の2が乳用種となっている。そのため、酪農部門の拡大や縮小といった動向が牛肉生産量に大きな影響を与える。2018年の牛肉生産量は、夏に複数のEU加盟国が干ばつに見舞われたことや、それに伴い冬期間の飼料不足が予想されたことから、多くの国で繁殖牛の淘汰が行われたため、前年比1.9%増となった。

① 主な政策

ア 介入買い入れ

2014年以降の新たなCAPでは、一加盟国または一加盟国の一部地域の市場のR3（形態および脂肪ともに中間に位置するに格付けされた雄牛）の枝肉の平均価格が、1トン当たり1890ユーロの介入価格を下回った場合、介入買い入れが検討される。なお、これまで、介入買い入れが行われたことはない。

イ 民間在庫補助

EUでは、R3の枝肉参考価格を1トン当たり2224ユーロと定め、EU平均市場価格が参考価格を下回り、それが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが検討される。なお、介入買い入れ同様に、

これまで民間在庫補助が行われたことはない。

ウ 直接支払い

2003年のCAP改革により、生産にリンクした直接支払いは、原則廃止されたが、加盟国レベルで、生産維持を目的に生産とリンクした直接支払いを実施することは可能となっている。

エ 輸出補助金

EU産牛肉の国際競争力を維持し、輸出を促進するため、輸出補助金を交付できる仕組みがあった。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに設定されていた。しかし、2015年の世界貿易機関（WTO）のナイロビ会議での合意により、輸出補助金は廃止となった。なお、CAPの下で、例外的に輸出補助金の使用が認められているものの、2018年は、牛肉・子牛肉で輸出補助金の発動はない。

オ BSE関連対策

動物性たんぱく質の飼料利用の禁止、食肉に供される牛からの特定危険部位の除去などのBSE対策などが実施されている。講じられる対策の有効性を検証するため、BSEモニタリング検査などが実施されている。

② 肉牛の生産動向

ア 牛飼養経営体数

EUの牛飼養経営体数（乳用種を含む）は、大規模化などを背景として小規模層を中心に減少傾向にあり、2013年は228万戸と、前回調査（2010年）から13%減少した（表15）。

牛飼養経営体数は、2013年のEUの全農業経営体数（1084万戸）の約2割を占めていることから、農業経営体の約5分の1は何らかの形で牛を飼養していることになる。国別では、ルーマニア（64万戸）、ポーランド（42万戸）、フランス（18万戸）、ドイツ（13万戸）、アイルランド（11万戸）、イタリア（11万戸）が多い。

表 14 牛肉需給の推移

区分/年	(単位：千トン、%)					増減率
	2014	2015	2016	2017	2018	
生産量	7,532	7,657	7,851	7,856	8,003	1.9
輸入量	308	300	304	285	312	9.5
輸出量	208	211	248	270	251	▲ 7.0
消費量	7,632	7,747	7,907	7,871	8,064	2.5
1人当たり消費量 (kg)	10.5	10.6	10.8	10.8	11.0	2.2
自給率 (%)	100.2	101.1	102.1	102.8	102.2	▲ 0.6 ポイント

資料：欧州委員会「EU agricultural markets short-term outlook - autumn 2020」

注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。
 注2：輸入量および輸出量は生体牛を除く。
 注3：自給率は、と畜牛の枝肉生産量から枝肉換算した生体牛の輸出入量を差し引きして算出した生産量と、消費量から算定。

イ 飼養頭数

2018年12月時点の牛飼養頭数(乳用種を含む)は、前年比1.5%減の8745万頭であった(表15)。飼養頭数が多い国は、フランス1861万頭、ドイツ195万頭、英国961万頭と続き、この上位3カ国でほぼ半数を占める(図8)。

2013年の1戸当たり牛飼養頭数は38.5頭で、2010年から15%増加した。種類別の牛飼養割合などは、加盟国間で違いがある(図9)。

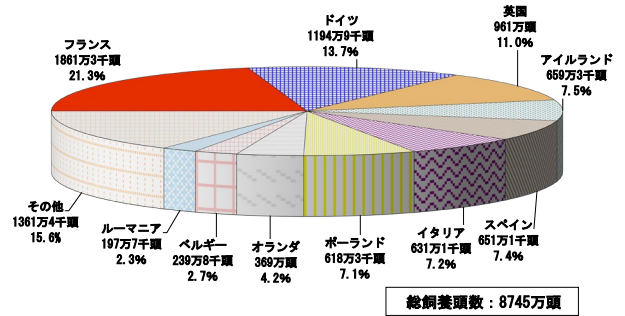
表 15 牛(乳用種を含む)飼養経営体数、飼養頭数および1戸当たりの飼養頭数の推移

区分/年	(単位：千戸、千頭、頭/戸、%)							増減率
	2013	2014	2015	2016	2017	2018		
牛飼養経営体数	2,279	-	-	-	-	-	-	
飼養頭数	87,734	88,383	89,119	89,504	88,797	87,450	▲ 1.5	
1戸当たり飼養頭数	38.5	-	-	-	-	-	-	

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。
 注2：牛飼養経営体数は、2014年以降公表されていない。

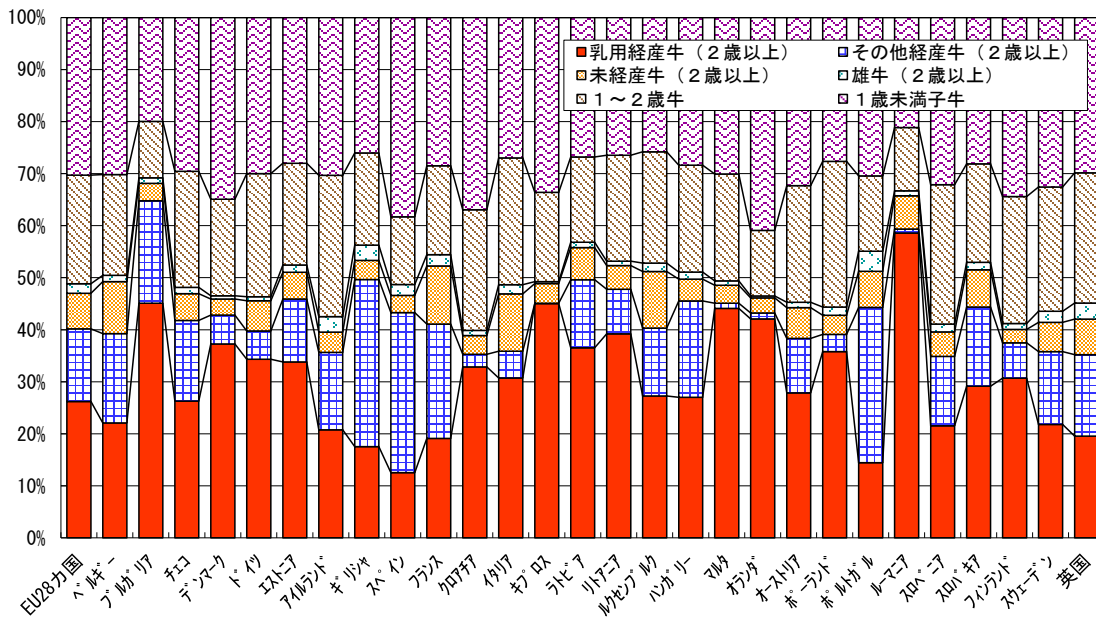
図 8 国別牛飼養頭数(2018年12月)



資料：欧州委員会「Eurostat」

注：EU28カ国。

図 9 国別種類別牛飼養割合(2018年12月)



資料：欧州委員会「Eurostat」

③ 牛肉の需給動向

ア 牛肉生産量

2015年3月末の生乳生産割当(クオータ)制度の廃止を見越して酪農部門の飼養頭数が拡大していた中、2017年は、乳価の回復から乳用雌牛の肉牛部門への供給が減少し、前年比0.1%増と前年同水準となった。

2018年は夏の干ばつに伴う冬の飼料不足が予想されたことから、乳用雌牛の供給が増加したため同1.9%増の800万トン(枝肉換算)となった(表14)。

イ 輸入および輸出

基本的にEUの牛肉市場は需給均衡型である。

輸入では、ガット・ウルグアイラウンド合意に基づき、さまざまな関税割当や近隣国との特惠制度が設けられている。2018年のEU域外からの輸入量は前年比9.5%増の31万トン（枝肉換算）となった。主な輸入先は、ブラジル、アルゼンチンなどである。

輸出は、2001年のBSE問題の再燃や2002年2月の口蹄疫の発生により、一時的にEU産牛肉の禁輸措置が講じられたことで長年にわたり減少傾向で推移してきた。また、2014年に、最大の輸出先であったロシアによる禁輸措置が講じられたことから、ロシアに代わる市場として東南アジアや中東、アジアや北アフリカ諸国への輸出を増やしていたものの、2018年は5年ぶりに前年を下回る同7.0%減の25万トンとなった。

ウ 消費

消費量は、2014年以降増加傾向で推移しており、2018年は前年比2.5%増の806万トンと増加した。1人当たり年間消費量も同様の傾向となっており、2018年は同2.2%増の11.0キログラムとなった（表14）。

④ 肉牛・牛肉の価格動向

2018年の牛枝肉卸売価格は、雄牛で前年とほぼ変わらず、去勢牛で前年比0.2%安となった（表16）。

表16 牛枝肉卸売価格の推移
（単位：ユーロ/100kg、%）

年/区分	牛枝肉卸売価格			
	雄牛		去勢牛	
	価格	変動率	価格	変動率
2014	368.1	▲ 2.6	411.9	▲ 5.7
2015	372.9	1.3	447.1	8.5
2016	364.5	▲ 2.2	398.6	▲ 10.8
2017	376.4	3.3	402.9	1.1
2018	376.5	0.0	402.2	▲ 0.2

資料：欧州委員会「CIRGABC」

(3) 養豚・豚肉産業

2018年のEU（加盟28カ国）の豚肉生産量は、世界の生産量の約2割を占めている。

EUの豚肉自給率は110%前後で推移しており、純輸出地域である。中でも、わが国の主要な豚肉輸入元であるスペインは、EU全体の輸出量の27%程度を占める。EUでは、加盟国間で差があるものの、全体的に見ると食肉消費量に占める豚肉の割合は牛肉、鶏肉、羊肉と比べると最も大きい。

EUの豚肉生産は、2007年、2012年の飼料価格の高騰などの影響を受け、増産と減産を繰り返している。2011年および2012年は、2013年のアニマルウェルフェアに関する規制の完全施行に対応するため、一時的に生産は減少したが、2014年以降は、生産構造の変化により生産性向上が図られたことで、増加傾向となっている。規制内容は、具体的には、妊娠豚のストール飼いの禁止や繁殖母豚の飼養面積の拡張のために豚舎の増改築などの対応を必要とするものである。これにより、対応できない小規模農家では経営を中止したり、繁殖、肥育の分業化、統廃合などが行われたりするなど、業界全体で生産構造の変化の動きが活発になった。

① 主要な政策

ア 民間在庫補助

EUでは、標準的な豚（クラスEまたはR）の枝肉参考価格を1トン当たり1509.39ユーロと定め、EU平均市場価格が参考価格を下回り、それが継続する可能性がある場合、一定量を一定期間、在庫として保管する業者に対し、保管経費の補助を行うことが検討される。

2015年3月には、前年2月のロシアの禁輸措置に伴い需給が緩和したことから、3月に民間在庫補助が発動され、約6万トンの豚肉が市場から隔離された。また、2016年1月には、季節的な要因やロシア禁輸措置の影響などから発動され、約9万トンの豚肉が隔離された。なお、2018年は発動されていない。

イ 輸出補助金

EU産豚肉および加工品の国際競争力を高め、輸出を促進するため、輸出補助金を交付できる仕組みがあった。輸出補助金の単価は、域内の市場価格と国際価格との差に基づき、品目ごと、輸出先ごとに設定されていた。しかし、2015年の世界貿易機関（WTO）のナイロビ会議での合意により、輸出補助金は廃止となった。なお、CAPの下で、例外的に輸出補助金の使用が認められて

いるものの、2018年は、輸出補助金の発動はない。

② 肉豚の生産動向

ア 養豚経営体数

EUの養豚経営体数は、飼料価格の高騰、アニマルウェルフェアの規制強化などさまざまな要因を背景として小規模層を中心に減少し、大規模化や分業化が進む傾向にあり、2013年は、前回調査（2010年）から24%減少し、219万戸となった（表17）。

養豚経営体数は、2013年のEUの全農業経営体数（1084万戸）の約2割を占めていることから、全農業経営体の約5分の1は何らかの形で豚を飼養していることになる。養豚経営体数は、ルーマニア（128万戸）が圧倒的に多く、次いでポーランド（28万戸）、ハンガリー（13万戸）、クロアチア（8万戸）、リトアニア（6万戸）、スペイン（5万戸）となっている。小規模農家が中心となっている国で養豚経営体数が多い。

表17 養豚経営体数、飼養頭数および1戸当たり飼養頭数の推移

区分/年	(単位：千戸、千頭、頭、%)						
	2013	2014	2015	2016	2017	2018	増減率
養豚経営体数	2,191	-	-	-	-	-	-
飼養頭数	146,242	148,331	148,716	147,188	150,257	148,167	▲1.4
1戸当たり飼養頭数	66.7	-	-	-	-	-	-

資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：飼養頭数は、12月末時点のもの。

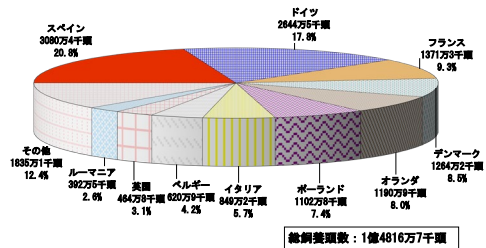
注2：養豚経営体数は、2014年以降公表されていない。

イ 飼養頭数

2018年12月時点の豚飼養頭数は、1億4816万頭（前年比1.4%減）となった（表17）。

飼養頭数は、EU全土に分布しているものの加盟国間で大きな差があり、スペイン、ドイツ、フランス、デンマーク、オランダ、ポーランドの6カ国で全体の約7割を占めている（図10）。上位2カ国のスペインとドイツのみで約4割を占めるが、特に、近年はスペインの伸びが顕著であり、2018年は同2.8%増となった。

図10 国別豚飼養頭数（2018年12月）



資料：欧州委員会「Eurostat」

注：EU28カ国。

③ 豚肉の需給動向

ア 豚肉生産量

2018年の豚肉生産量は、前年比1.8%増の2408万トン（枝肉換算）となった（表18）。

表18 豚肉需給の推移

(単位：千トン、%)

区分/年	2014	2015	2016	2017	2018	増減率
生産量	22,737	23,436	23,866	23,660	24,082	1.8
輸入量	14	11	12	14	15	5.6
輸出量	1,948	2,218	2,813	2,574	2,678	4.1
消費量	20,803	21,229	21,065	21,101	21,419	1.5
1人当たり消費量 (kg)	31.9	32.5	32.2	32.2	32.6	1.3
自給率 (%)	109.5	110.5	113.3	112.2	112.5	0.3ポイント

資料：欧州委員会「EU agricultural markets short-term outlook - autumn 2020」

注1：枝肉換算ベース。1人当たり消費量は純食料ベース。

注2：生産量は加工などに伴う損耗を考慮した数値。

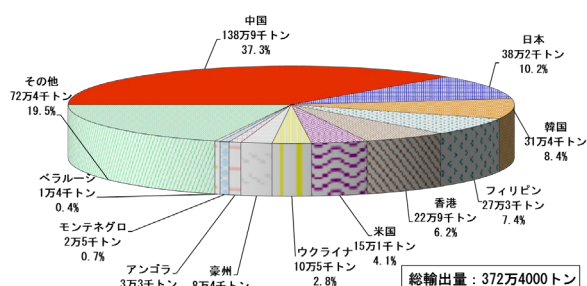
注3：自給率は、と畜豚の枝肉生産量から枝肉換算した生体豚の輸出入量を差し引きして算出した生産量と、消費量から算定。

イ 輸入および輸出

EU域外への輸出量（枝肉換算）は、2017年に特に中国向けが大きく減少し、前年比8.5%減の257万トンとなった。2018年は、引き続き中国向けが減少したものの、生産量の増加や中国以外のフィリピンや韓国などのアジア向けの需要が増えたことから、同4.1%増の268万トンとなった。2014年からの禁輸により失われたロシア市場の代わりに、人口増加や経済成長を続け、需要の高まっているアジアやアフリカなどへの輸出が増加している（図11）。なお、EU域外への輸出量について輸出国別に見ると、最大の輸出国はスペイン、次いでドイツ、デンマークとなり、これら上位3カ国で輸出量の6割を占めている。

なお、2018年のEU域外からの輸入量（枝肉換算）は、1万4864トン（同5.6%増）となった。

図11 豚肉の輸出先別輸出品量（2018年）



資料：デンマーク農業理事会「STATISTICS 2018 Pigmeat」

注1：製品重量ベース。

注2：生体、内臓肉、調製品などを含む。

資料：デンマーク農業理事会「STATISTICS 2018 Pigmeat」

注1：EU28カ国。

注2：製品重量ベース。

注3：生体、内臓肉、調製品などを含む。

ウ 消費

2018年の消費量は、前年比1.5%増の2142万トンとなった。

同年の1人当たり消費量は、同1.3%増の32.6キログラムとなった。

④ 豚肉の価格動向（豚肉の市場価格）

豚枝肉卸売価格は、加盟国の代表的な市場の加重平均価格をベースとして算出される。

2018年の枝肉卸売価格は、前年比11.6%安となった（表19）。主要生産国であるドイツ、デンマークでもそれぞれ同12.0%安、同13.9%安となった。

表19 豚枝肉卸売価格の推移

（単位：ユーロ/100kg、%）

年/区分	豚枝肉卸売価格					
	EU		ドイツ		デンマーク	
	価格	変動率	価格	変動率	価格	変動率
2014	156.4	▲ 10.9	158.4	▲ 9.2	146.0	▲ 8.5
2015	139.6	▲ 10.8	142.6	▲ 10.0	130.1	▲ 10.9
2016	146.0	4.6	151.8	6.5	136.8	5.1
2017	160.7	10.1	165.9	9.3	148.7	8.7
2018	142.0	▲ 11.6	146.0	▲ 12.0	128.0	▲ 13.9

資料：欧州委員会「CIRCABC」